

平成 24 年 3 月 31 日

【第七回日米ユースフォーラム報告書】

ユースフォーラムジャパン印

第七回日米ユースフォーラムは無事に終了致しました。2005 年に創設した日米ユースフォーラムも第七回を数える事になりました。御多忙の中、御臨席を賜りました高円宮妃殿下を初め、協賛及び協力を頂いた関係団体の皆様の御支援に感謝申し上げます。

プログラムは従来通り二部構成とし、前半は学生代表による Panel Discussion、後半を学生と社会人の交流を目的とした懇親会と致しました。

日本は昨年 3 月 11 日に未曾有の大震災、津波、原発事故に遭遇したわけですが、今も最終解決に至らない放射能問題に鑑み、[青年の考える将来のエネルギー政策]をテーマと致しました。将来の世界を担う青年が日本での過酷な事故の教訓を共有し、共に考えて貰いたいとの願いからです。

実行に当りましては前年度の実行委員を中心とする準備委員会を経て実行委員会（高橋亜矢委員長）が組織され、パネリストの選考を含めて周到に準備を重ねました結果、約 150 名の学生及び社会人が集い熱気溢れるフォーラムとなりました。討論内容及びパネリストのプロフィール等は学生報告書（英文）を御参照ください。尚本報告書は主催団体[ユースフォーラムジャパン]のホームページに掲載予定です。

記

日時 2011年12月8日 17:30-21:00

場所 日本外国特派員協会（有楽町電気ビル北館20階）メディアルーム

主催団体 ユースフォーラムジャパン

後援団体 外務省 米国大使館 （社）日米協会 日米学生会議同窓会

協賛団体 日本コカ・コーラ株式会社（財）東芝国際交流財団（社）霞会館

協力団体 仏大使館 シンガポール大使館 シンガポール国立大学（日本語学科）慶応・復旦ダブルディグリープログラム DAAD（ドイツ学術交流会）

第一部：[青年の考える将来のエネルギー政策]をテーマに、今年は6カ国から代表パネリストを招待した。MC の安川瑛美（昨年は Moderator）の紹介の後、主催者挨拶、基調講演（孫崎享氏、Sam Jameson 氏）に続き、討議（Panel discussion）に入った。Moderator は前年度のフォーラムでパネリストを務めた

栗原隆太郎、パネリスト日本、アメリカ、中国、シンガポール、ドイツ、フランスから各 1 名、合計 6 名の構成とした。パネリストの出身国については理由がある。

原発廃止を決定したドイツ、ドイツに電力を供給するフランス、経済成長の為に多くの原発計画を持つ中国を含めた。パネリストの招致に当っては、有力大学及び関係機関に選考の協力を依頼した。昨年引き続き中国は慶応 S F C ・復旦大学の Double Degree Program、シンガポールはシンガポール国立大学に推薦を依頼し、ドイツはドイツ学術交流会 (DAAD)、フランスは大使館の協力を得た。日本及び米国については日米学生会議代表 (63 回) から適任者を選ぶことが出来た。パネリストは全員が映像を利用しながら、5 分程度の意見表明を行い、一巡の後、パネリスト相互の討論及び会場との活発な質疑応答が行われた。これらパネリストの発言や Moderator の進行を通じて参加学生の深い思考力と高い語学力が評価された。

[日米ユースフォーラム]がフォーラムの名称であるが、課題の地球規模化の結果として、日米を越えた多国間の討論の場として定着しつつある。

第一部終了時には恒例となった高円宮妃殿下の激励のスピーチを頂いた。

第二部：大河原良雄元駐米大使 (日米協会会長)、P.Hoffmann 駐日米国公使、Stefan Herzberg 駐日ドイツ公使、橋本徹日米学生会議同窓会会長が来賓挨拶、主催団体を代表して愛知和男氏 (元国務大臣) が乾杯の挨拶を行った。懇親会では高円宮妃殿下から Moderator、パネリスト並びに実行委員会代表に記念のメダルを授与して頂いた。恒例の Entertainment は尾崎裕哉 (慶応 SFC) が歌を披露、社会人、世代を超えた交流の場となった。

アンケート結果 (添付アンケート調査要約参照)：会場参加者からアンケート (主に第一部について) では、ほぼ全員が満足を表明した。同世代の学生参加者からは多国間の学生討論の意義や、レベルの高さに感動したとのコメントがあった。テーマが 2011 に限り最適の選択であったとの意見が寄せられ、更に日本人学生の英語力の高さについて評価を得た。これが日本人学生一般を代表している訳ではないが、参加学生への刺激になったと考える。フォーラムの準備を進めた学生協力者の中心は前回フォーラムの経験者及び日米学生会議参加者だったが、アンケートで次回のフォーラムへの協力を申し出た一般参加学生が何人もいた事は心強かった。本イベントは学生の他に毎回手弁当で学生を励まし協力している主催団体の社会人役員の存在が大きい、フォーラムは毎年改善されているとの自己評価があった。短いイベントの時間内でのプログラムの配分などについては改善の余地がある。

実行委員会名簿(学年は2011年12月8日現在)

実行委員長 高橋亜矢(青山学院大学国際政経学部3年)

副委員長 伊藤実梨(慶応義塾大学法学部2年)

総合司会 安川瑛美 コスモピーアール社(一橋大学大学院卒)

Moderator 栗原隆太郎(慶応義塾大学法学部3年)

総務・広報 塩原梓(東京大学薬学部3年)

広報 杉山和(武蔵野美術大学2年)

広報(YFJ理事 Web Master) 神馬光滋(国際基督教大学教養学部4年)

安藤歩美(東京大学大学院1年)

Ashley Hill(フルブライトフェロー、米国 Colgate University 卒)

パネリスト及び Moderator 名簿

Moderator

- ・栗原隆太郎 慶応大学法学部3年

Panelist

- ・小田康弘 東京大学医学部(医学科)3年
- ・Ashley Hill 米国 フルブライトフェロー Colgate University 卒
- ・Yuqiao Feng 中国 復旦大学 慶応—復旦 Double Degree program
- ・David Funtowicz フランス Mines Engineering school Nantes 卒 東京大学大学院2年(原子力技術)
- ・Markus Winter ドイツ Maastricht 大学卒 National Graduate Institute for Policy Studies
- ・Mizael Poh シンガポール 国立シンガポール大学(日本語学科)3年

第一部報告書(英文)

1. 討論の総括 栗原隆太郎
2. 各パネリストの総括(Summary & Reflection)

その他添付書類

案内書(英文及び和文)

参考写真(添付)

アンケート結果要約